

3 学習意欲におよぼす 学級の物理的環境

今野
新片 村倉

次郎
秀雄 一

堺市立五箇荘小学校
大阪市立東中川小学校
大阪市立学立小学校

児童は好ましい学習環境にあれば、それだけ一層、学習活動が活発になる。またそれなりの学習効果も期待されるだろう。われわれは児童に理想的な学習環境を設定するために、何とどのように考慮し、備えたらよいのだろうか、という点について、これまであまり関心を払わないうできなかった。例えば経済的な理由や教師の経験により、これらの問題が考えられ整えられてきたのは事実であっても、客観的なデータにより説明されたものではなかった。しかし児童にとってこれら用意されたものが学習に必要であり、また学習効果が上がるという保証と与えるために不要なものと必要なものとを明確にすることが重要である。

今回の調査では、学級の物理的環境と児童の学習意欲との関係について検討することにした。学習活動に関係の深い設備・備品の種類が多くなると、それを使用するため児童間の接触のチャンスや役割遂行の活動が多くなる。そこに自主的な行動が誘発されて学習意欲に影響をおよぼすだろう。ここに学級集団の最適規模も規定されてくるといえる。またこれらの学習活動の中では、当然のことながら担任教師の年齢・性別、さらには児童の居住地域によっても学習意欲に影響を与えることになる。これらの物理的環境と学習意欲との関係を調査することにより、児童にとって理想的な学習環境を設定するための条件を究明したい。

そのため、以下の仮説を設定し、今回の調査結果により検証することにした。

仮説Ⅰ 学級の設備・備品の整っている学級の児童は、そうでない学級の児童にくらべて高い学習意欲を示すだろう。

仮説Ⅱ 学級規模の小さい学級の児童は、規模の大きい学級の児童にくらべて高い学習意欲を示すだろう。

仮説Ⅲ 教師の年齢・性別のちがいによって学習意欲に差異がみられるだろう。

仮説Ⅳ 児童の居住地域のちがいによって学習意欲に差異がみられるだろう。

調査対象については、地域別と教師の年齢・性別の構成と重視して大阪府下24校の小学校に対し、質問紙調査法が行われた。特に対象者は2年生と5年生に限定されたが計2317名からの結果は教師のサンプル数60名に対応して集計されたため、445名がそこから無作為に抽出され、データの分析が行われた。その測定法は、

I. 環境調査(担任教師への調査)

- ① 学級の設備・備品の種類
- ② 学級の規模
- ③ 担任教師の年齢と性別
- ④ テレビの利用の度合い
- ⑤ 児童の居住地域(住宅・団地アパート・工業・商業の四地域に区分)

II. 学習意欲の調査

- ① 課題の成績 標準化された国語のテストを学年別の実施した。
- ② 学習意欲を測定する質問紙 (i)課題についての自信の程度, (ii)課題の難易度, (iii)他者との比較, (iv)課題の達成度, (v)自己の能力についての自信の程度を5段階評価させた。
- ③ 要求水準の測定 課題終了直後に、「あなたは、もし、きょうとおなじようなこくごのもんだいをもう1かいるとしたら、なんてんぐらいいれるとおもいますか。」という質問紙を用いて測定した。